

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は上値の重い展開か

[12月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月1日～12月5日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	156.24	156.24(1)	154.46(5)	154.52	-1.66
ユーロ・ドル	1.1600	1.1682(4)	1.1590(1)	1.1666	+0.0068
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
終値		前週末比		終値	前週末比
日経平均株価	50,491.87	+237.96	日本10年債利回り	1.947	+0.135
ダウ平均株価	47,850.94	+134.52	米10年債利回り	4.098	+0.085
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本第3四半期GDP 2次速報、日本10月経常収支
中国11月貿易収支
独10月鉱工業生産指数
- 9日 豪中銀(RBA)政策金利
独10月貿易収支
植田日銀総裁イベント講演
- 10日 中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数
米第3四半期雇用コスト指数
カナダ銀行(BOC)政策金利
米連邦公開市場委員会(FOMC、9-10日)政策金利
パウエルFRB議長記者会見
- 11日 豪11月雇用統計
スイス銀行(SNB)政策金利
米新規失業保険申請件数
カナダ9月貿易収支
- 12日 日本10月鉱工業生産指数確報値
独11月消費者物価指数確報値
英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数
英10月月次GDP、英10月貿易収支

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。

【前回のレビュー】米経済指標の動向に左右されやすく、利下げ期待の高まりもあってドル円は上値の重い展開となりやすい。一方で、日本の財政支出拡大への警戒感や日銀が利上げを先送りするとの観測から、円売り圧力は根強い。さらに、160円を視野に円安が進行すれば、介入警戒感が上値を抑える要因となる。こうした中、ドル円はレンジ相場が続く展開とした。

【日銀の利上げ観測の高まりが円買いを誘う】

12月1日の週は、9～10日に予定される米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ期待の高まりに加え、18～19日の日銀金融政策決定会合での利上げ観測が意識され、ドル売り円買いに傾きやすい展開となった。ドル円は1日の156円台前半から154円台半ばまでドル安円高が進行している。

米国では、1日に発表された11月のISM製造業景況指数が48.2と市場予想の49.0を下回った。さらに3日のADP雇用者数は前月比3.2万人減となり、市場予想の2.1万人増に反して予想外の減少を示した。これらの結果を受け、今月のFOMCでの利下げ確率は一段と上昇している。CME FEDウォッチでは、今回の利下

げ確率は90%前後に達している。

日本に目を向けると、12月1日に日銀の植田総裁は、「経済・物価の中心的な見通しが実現していく確度は、少しずつ高まってきている」「遅すぎることもなく、早すぎることもなく、緩和の度合いを適切に調整していくことは、金融資本市場の安定を確保しつつ、物価安定目標をスムーズに実現するとともに、経済を息の長い成長軌道に乗せるために必要」などと述べた。さらに18～19日に開催される日銀会合において、「利上げの是非を適切に判断したい」と言及したことで、利上げ観測が一段と高まった。この発言を受けてNY時間には、ドル円は154円台後半まで下落した。

4日には一部通信社が「日銀が12月に利上げの可能性、日本政府も容認の見通し」と報じたことから、利上げ観測が再燃し、ドル売り・円高が進行。ドル円は154円台半ばまで下落している。

【FOMCの結果やパウエル議長会見、政策金利見通しに注目】

12月8日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、8日に日本第3四半期GDP2次速報、日本10月経常収支、10日に米第3四半期雇用コスト指数、米連邦公開市場委員会（FOMC、9～10日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、11日に米新規失業保険申請件数、12日に日本10月鉱工業生産指数確報値などがある。

12月9～10日に開催されるFOMCが最大の焦点となる。市場では0.25%の利下げがおおむね織り込まれている。米国では政府機関の閉鎖の影響で10月分の雇用統計が発表されず、11月分もFOMC後の12月16日に公表予定となっている。経済指標の発表が遅れる中で政策判断が難しい状況にあり、パウエル議長が今後の利下げについてどのような見解を示すかが注目される。

さらに今回は、FOMCメンバーによる政策金利見通し（ドット・チャート、ドット・プロット）が公表される。2026年末の政策金利見通しは9月時点で3.4%（6月時点で3.6%）となっており、その変化が焦点となる。

9月時点では、2026年の実質GDPは1.8%、失業率4.4%、PCE物価指数2.6%、PCEコア物価指数2.6%と見込まれていた。今回、これらの数字がどのように変化するかが、今後の金融政策見通しに影響を与えるとみられる。

FOMCでの0.25%の利下げは確度が高く、市場でもほぼ織り込み済みとされる。CME FEDウォッチでは、2026年末時点で2～5回の利下げ見通しが合計で95%前後の確率に達している。さらに18～19日の日銀会合では、利上げ確率が80%前後に達している。こうした状況のもと、ドル円は日米金利差縮小への思惑から上値の重い展開が予想される。目先の予想レンジは152.00～156.00円となる。

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルは緩やかに上値を追う展開か】

ユーロドルは11月21日の1.14台後半から上昇が続き、1.16台後半まで上値を伸ばした。米国での利下げ期待によるドル売りの影響が大きく、今後のFOMCでの利下げ方針に左右されやすい状況となっている。

欧州中央銀行（ECB）に関しては利下げサイクルの終了を示唆しており、ユーロドルの動向はドルの動きに左右されやすい流れが続きそうだ。ドルの軟調な流れは継続する可能性が高いとみられ、ユーロドルは緩やかに上値を追う展開が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1550～1.1850ドル。

ポンドドルもドルの軟調さを背景に上昇傾向を維持している。4日には1.33台後半まで上値を伸ばし、1.3350台を突破した。3日に大きく上昇した反動安への警戒は残るものの、力強い流れが続いており、上値を追う展開が継続するとみられる。目先の予想レンジは1.3150～1.3500ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、8日に中国11月貿易収支、独10月鉱工業生

産指数、9日に豪中銀（RBA）政策金利、独10月貿易収支、10日に中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、11日に豪11月雇用統計、スイス銀行（SNB）政策金利、12日に独11月消費者物価指数確報値、英10月鉱工業生産指数、英10月月次GDP、英10月貿易収支などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。